

平成 29 年度 事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

社会福祉法人 空知の風

目次

法人事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・	3 ページ
たのしいどう事業報告・・・・・・・・・・	16 ページ
きっちんどう事業報告・・・・・・・・・・	27 ページ
あかるいどう事業報告・・・・・・・・・・	40 ページ
歩～夢 事業報告・・・・・・・・・・	52 ページ
楽しく事業報告・・・・・・・・・・	60 ページ
そらなび事業報告・・・・・・・・・・	61 ページ

平成 29 年度 法人事業報告

◇はじめに

～平成 29 年度事業の総括～

平成 29 年度は改正社会福祉法が本格施行され、社会福祉法人の経営組織のガバナンス強化、財務規律の強化について、いわゆる社会福祉法人改革が行なわれました。評議員選任に係る諸手続きや、理事会及び評議員会の位置づけの見直し、財務状況の開示など、多岐にわたる対応を行ないました。また、改正社会福祉法に係る対応に加え平成 29 年度は次の 3 点を重点目標として取組んで参りました。

1. 法人事業の中長期の計画策定
2. 事業振興策の推進
3. 職員の育成

1. 法人事業の中長期の計画策定

法人事業の中長期の計画策定については、事業再編検討委員会を設けて、計画策定に向けた議論を重ねて来ました。利用者・家族に向けた意向調査や、職員へのアンケートを実施し、法人の事業、利用者支援や支援環境、組織や職員の体制、将来に向けた事業の見通し、建物や設備について等、多岐に渡る項目について、議論し、計画策定に向けて取組みました。平成 30 年度の制度改正、報酬改定等の状況もあり、平成 29 年度内での計画策定に至らない状況のため、引き続き平成 30 年度も中長期計画の策定作業を進めて参ります。

2. 事業振興策の推進

事業振興の推進では、企業との業務提携による、新たな請負業務の受注、地元企業との連携による施設外就労への取組み、全国全道の仲間の施設との施設間取引による内需拡大の推進を進めて参りました。利用者さんの就労支援の充実と工賃水準の引上げに向けて今後も取組んで参ります。

3. 職員の育成

職員の人材育成については、現場での指導を通じた育成や、内外の研修参加を実施して来ました。ここ数年は少子高齢化による労働人口の減少の影響や福祉業界全体の大変厳しい情勢により、育成の前に職員の人員確保に頭を悩ませる状況が続いています。職員の確保と育成を継続的に取組んで参ります。

■役員会運営

平成29年度は社会福祉法人改革を経て、新しい役員構成での初年度となりました。新たに選任された評議員による定時評議員会が開催され、事業報告や決算の承認、福祉充実残額の計算、理事の選任等が行われました。臨時評議員会については書面による決議を行なう評議員会を2回行なっています。理事会に関しては、新たに選任された理事による理事長互選、常務理事の選任の他いくつかの人事についての決定を行なっています。その他は定例の理事会を開催しています。入札等の案件は発生しておりません。また、前年度末にご勇退された成澤哲雄初代理事長に代わり、橘文也理事長が就任しています。その他の法人運営に係る役員会運営についても予算執行や各議案について活発かつ慎重な審議を行ない、事業運営を滞りなく実施する事が出来ました。

また、監事監査は、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、実務上の改善事項について助言を頂き運営改善に繋がっております。

法人経営と会計については、社会福祉法人会計に長けた会計士事務所による外部監査も継続しています。法人改革の重点項目である財務規律の強化の面で、社会福祉充実残額の適切な算定と、法人の財産を地域社会に役立てる方策なども検討をしています。

○理事会の開催状況について

平成29年度	第1回	理事会	平成29年 4月 1日	(出席理事6名・監事2名)
平成29年度	第2回	理事会	平成29年 5月18日	(出席理事6名・監事2名)
平成29年度	第3回	理事会	平成29年 6月10日	(出席理事5名・監事2名)
平成29年度	第4回	理事会	平成29年12月 8日	(出席理事6名・監事2名)
平成29年度	第5回	理事会	平成30年 3月23日	(出席理事6名・監事2名)

○評議員会の開催状況について

平成29年度	定時評議員会	平成29年 6月10日	(出席評議員7名・監事2名・理事5名)
平成29年度	書面による決議の評議員会	平成29年 6月19日	(評議員7名)
平成28年度	書面による決議の評議員会	平成29年12月15日	(評議員7名)

■監査等の状況について

○監事監査の実施状況について

平成28年度	前4期及び前期決算監事監査	平成29年 5月10日	(業務・会計監査)
平成29年度	第1期監事監査	平成29年 9月14日	(業務・会計監査)
平成29年度	第2期監事監査	平成29年11月24日	(業務・会計監査)
平成29年度	第3期監事監査	平成30年 3月 9日	(業務・会計監査)

○外部監査の実施状況について（よつば会計事務所）

平成29年度	4月5月6月分	平成29年	7月20日
平成29年度	7月8月9月分	平成29年	10月20日
平成29年度	10月11月12月分	平成30年	1月25日
平成29年度	1月2月3月分	平成30年	4月19日

○苦情解決委員会の開催状況について

平成28年度 苦情解決委員会 平成29年4月24日（委員11名）

■施設整備等について

主な施設・事業所の整備としましては、グループホーム「春が来た荘」が秋の大雨と冬の急激な雪解けにより、2度にわたりオーバーフローして軒下や壁の内部などが水濡れしたことで修繕を行なっています。また、グループホーム「いなほが実り荘」が立ち退きを求められたのに伴って新たな住居を開設する必要が生じ、中古物件1棟を購入・リフォームして新たにグループホーム「みないい荘」を整備いたしました。法人設立以来初めて法人所有のグループホームとなります。

その他、機器整備としては、ヤマト福祉財団様より助成金をいただき、「きっちんどう」にスチームコンベクションオープンと業務用冷凍庫、食器洗浄機を整備いたしました。お弁当製造などの利用者さんの活動がよりパワーアップされています。また、今まで使用してきた倉庫が手狭で老朽化しており危険でありましたので大きな3連棟の車庫を購入しています。

車両についても老朽化で故障や傷みも著しい状態であるため、順次入れ替えを行なっています。当法人の建物や車両、作業設備等については依然として経年劣化したものが数多くありますので次年度以降についても引き続き整備を進めてまいります。

◇建物整備

①春が来た荘オーバーフロー修復工事

平成29年9月20日の大雨による屋根ダクトのオーバーフローによる被害の修復
修復費用 2,280,000円

②新規グループホーム整備

グループホーム「いなほが実り荘」がオーナーの都合により契約解除となり、代わりの住居として岩見沢市6条西13丁目の住宅を取得、建築基準法および消防法を満たすための改修工事を行ないました。

取得費用 4,800,000円

改修費用 9,271,702円



◇機器整備

①きっちんどう食品製造機器の購入

ヤマト福祉財団様より助成を受け、業務用調理機械を整備しました。

- ・スチームコンベクションオーブン
- ・業務用冷凍庫
- ・食器洗浄機

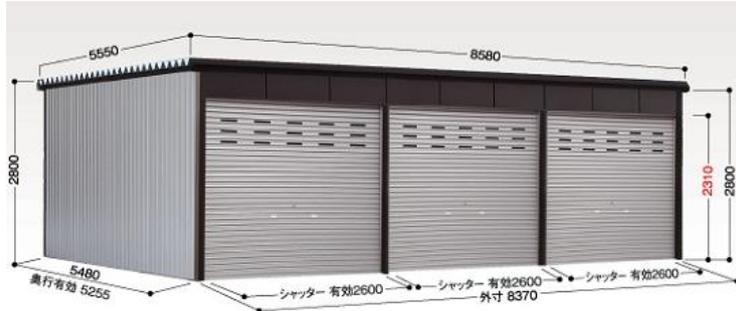
整備費用 2,246,400円(うち助成金 2,000,000円)



②たのしいどう3連車庫の購入

・ダイワガレージ3連棟

整備費用 1,012,680円



◇車両の購入

①トヨタシエンタ 平成17年式 7人乗り 4WD

□購入費用 630,000円

②トヨタレジアス 平成10年式 8人乗り 4WD

□購入費用 850,000円

■事故報告の状況について

□利用者さんに係る事故

①支援時間中の軽傷 3件 (通院・のち完治)

□車両による事故件数

①人身事故 0件

②単独接触事故 4件 (雪壁への接触、施設・建物への接触等、けが人なし)

③他の車との接触事故 3件 (交差点での衝突、駐車車両への接触等、けが人なし)

□その他の事故 1件 (食品表示の誤記によるクレーム)

■行事の実施状況について (各施設・事業所合同)

日時	行事名
平成29年 4月 1日	事業開始式
平成29年 7月 2日	第6回地域交流祭※法人行事
平成29年 9月 2日	第6回レクリエーション大会
平成29年 10月 13日～14日	利用者研修旅行 1班(江差方面)
平成29年 11月 17日～18日	利用者温泉旅行 2班(帯広方面)
平成29年 12月 23日	利用者大忘年会
平成29年 12月 8日	法人忘年会※法人行事
平成30年 1月 12日	新成人のお祝い会



事業開始式



地域交流祭



レクリエーション大会



利用者研修旅行（江差）



温泉旅行（帯広）



利用者忘年会



成人のお祝い会



■ 渉外活動（平成 29 年度）

渉外活動	職名	氏名
空知知的しょうがい福祉協会	理事	橘
	代表者	橘・松田・横田・竹治
	監事	松田
	幹事	廣岡・林
・岩見沢市障がい者福祉施策懇話会 ・岩見沢市障がい者サポート協議会	委員	橘
岩見沢市障がい者サポート協議会 相談支援部会	部会長	山下
日本知的障害者福祉協会 生産活動・就労支援部会全国大会	実行委員	橘・横田
全国社会就労センター協議会 事業振興委員会	委員	橘
北海道社会就労センター協議会 事業振興委員会	委員	横田

■ 苦情解決委員会および虐待防止委員会について

29年度の苦情件数3件 要望件数7件 その他日常に生じる相談多数

出席者：各事業所の苦情窓口担当者（廣岡理絵・鈴木・廣岡拓・山本・倉増・山下）

各事業所の苦情解決責任者（橘・横田・松田）

第3者委員（小松委員・小嶋委員・藤田委員）

会議概要：

事業所ごとに苦情や要望の受付件数や、具体的な相談ケースを報告しています。利用者さん同士のトラブルに関することや、スタッフのかかわり方に関する要望などが見られました。その他日常で利用者さんたちが感じる疑問などへの質問も寄せられております。その都度ケース検討や、面談の場を設定し、個別に対応をしています。第3者委員からは、管理職員による現場スタッフの力量やメンタル面の把握に努めることやパワハラ・セクハラに代表される職員への権利擁護についても組織的に取り組むことなどのご意見をいただき、また、挙げられた声をどのようにくみ取っていくのか、利用者さんとのかかわりの中で「慣れ」による怖さを自覚して丁寧にかかわっていくことを心掛けることなどの助言をいただきました。権利擁護や虐待防止の取り組みとして、当法人で行っている権利擁護委員会の年間の活動についての報告と、内部研修の取組について、また北海道知的障がい福祉協会の署名活動や、空知知的しょうがい福祉協会の権利擁護活動への参加、内部や外部の研修への参加を報告しています。



■役員・職員 外部研修参加について

日時	研修名	主催	場所	参加人数
4/5	西原先生を囲む学習会		岩見沢市	2名
5/24～25	北海道知的障がい福祉協会総会 全道施設長セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3名
6/29～30	北海道社会就労センター施設長・職員研修会・総会	北海道社会就労センター協議会	札幌市	2名
5/27～28	食を通じて新しいビジネスネットワークを考える実践研修会	食ものネットワーク	岐阜市	4名
7/4～5	全国知的障害関係施設長等会議	日本知的障害者福祉協会	東京都	2名
6/28	北歩～塾	空知知的しょうがい福祉協会	札幌市	1名
7/6	食品衛生責任者資格養成講習会	岩見沢地域食品衛生協会	岩見沢市	2名
11/8	食品衛生責任者資格養成講習会	岩見沢地域食品衛生協会	岩見沢市	1名
7/26	食品衛生責任者実務講習会	岩見沢地域食品衛生協会	岩見沢市	3名
9/26	食品衛生責任者実務講習会	岩見沢地域食品衛生協会	岩見沢市	1名
7/18～20	権利擁護指導者養成講座	北海道	札幌市	1名
7/19	権利擁護セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3名
7/27～28	全国社会就労センター協議会結成40周年記念大会	全国社会就労センター協議会	兵庫県	4名
8/21	全国グループホーム研修会	日本知的障害者福祉協会	福井県	2名
7/26～28	北海道サービス管理責任者研修	特定非営利活動法人きなはれ	札幌市	1名
8/18	社会福祉法人実務実践セミナー	よつば社会保険労務士事務所	美唄市	2名
9/27～29	全国知的障害福祉関係職員研究大会(愛知)	日本知的障害者福祉協会	愛知県	4名
9/20～21	全道知的障がい関係職員研究大会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	4名
9/6～7	日本セルフセンターウエス部会研修会	特定非営利活動法日本セルフセンターウエス部会	新得町	3名
9/26	空知知的しょうがい福祉協会 職員研修会	空知知的しょうがい福祉協会	岩見沢市	1名
11/9～10	全国生産活動・就労支援部会職員研修会	日本知的障害者福祉協会	兵庫県	4名
11/16～17	授産自主研修会	社会福祉法人ハルモニア	神奈川県	2名
11/7～9	サービス管理責任者研修	北海道地域ケアマネジメントネットワーク	札幌市	1名
10/12～13	全国社会就労センター協議会課題別専門研修会	全国社会就労センター協議会	東京都	1名
10/16～17	相談支援従事者研修会	北海道地域ケアマネジメントネットワーク	札幌市	1名

日 時	研修名	主 催	場 所	参加人数
10/18	製品製作・技術研修会表示に係るコンプライアンスセミナー	北海道社会就労センター協議会	札幌市	3 名
11/14	災害対策研修会	空知知的しょうがい福祉協会	深川市	2 名
11/8	苦情解決システム研修会	北海道福祉サービス運営適正化委員会	札幌市	1 名
10/26	障がい福祉に関する意見を聞く会	岩見沢市障がい福祉計画策定委員会	岩見沢市	2 名
10/23～24	北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修	北海道	札幌市	1 名
12/6	法人役員・施設長専門研修	北海道社会福祉協議会	札幌市	3 名
11/27	加齢化支援研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	1 名
11/29～12/1	相談支援従事者研修会	北海道地域ケアマネジメントネットワーク	札幌市	1 名
11/9	介護職員等処遇改善加算の取得促進に係る説明会	北海道空知総合振興局	岩見沢市	1 名
1/16	ハサップと食品表示義務化への対応研修	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	5 名
12/15	空知知的しょうがい福祉協会理事会・総会	空知知的しょうがい福祉協会	岩見沢市	4 名
1/14	地域支援部会会議	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	1 名
1/11	南幌養護学校冬季研修会	南幌養護学校	南幌町	2 名
3/8～9	空知知的しょうがい福祉協会宿泊幹事会	空知知的しょうがい福祉協会	夕張市	2 名
2/6	北海道就労センター協議会事業振興委員会	北海道社会就労センター協議会	札幌市	1 名
3/2	社会福祉法人実務者決算・財務分析講座	北海道社会福祉協議会	札幌市	1 名
3/7～8	北海道社会就労センター協議会第2回総会	北海道社会就労センター協議会	札幌市	2 名
2/13～14	北海道強度行動障がい支援者養成研修	北海道	札幌市	1 名
3/14～15	全道施設長研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3 名
合計				92 名

※研修参加回数 44 回

※役員・職員参加人数 92 名（延べ人数）

■内部研修について

日 時	研修内容	講師等
平成 29 年 4 月 3 日	権利擁護・障がい者虐待について (GH 世話人向け)	松田施設長
平成 29 年 4 月 28 日	利用者接遇について (パートスタッフ向け)	横田施設長
平成 29 年 5 月 20 日	障害福祉制度の役割と事業振興について	横田施設長
平成 29 年 6 月 2 日	仕事の進め方について (パートスタッフ向け)	横田施設長
平成 29 年 7 月 22 日	苦情解決の流れについて (ホーム世話人向け)	
平成 29 年 7 月 29 日	利用者支援について (パートスタッフ向け)	横田施設長
平成 29 年 8 月 29 日	障害福祉施策の動向 権利擁護・虐待防止について	橋総合施設長
平成 29 年 8 月 25 日 平成 29 年 9 月 1 日 平成 29 年 9 月 15 日	新人職員・パート職員研修 空知の風の職員に必要な事 について	横田施設長 山下部長
平成 29 年 9 月 1 日	法人職員としての心構え 知的障がいの理解について	橋総合施設長
平成 29 年 11 月 11 日	視察研修 社福) ナザレの村 (香川県)	
平成 29 年 11 月 24 日	役員・職員研修会 障害福祉施策の動向について わかりやすい手話講座	社福) 厚生協会 桑原 隆俊氏
平成 29 年 1 月 27 日	利用者・家族意向調査・職員 意識調査の結果から今後の 支援を考える	竹治課長
平成 30 年 1 月 27 日	フィードバック研修 食品表示について	横田施設長・林主任 山崎主任・山本主任
平成 30 年 2 月 24 日	権利擁護について	松田施設長
平成 30 年 3 月 17 日	食品表示におけるルールと ラベルの取扱いについて	横田施設長



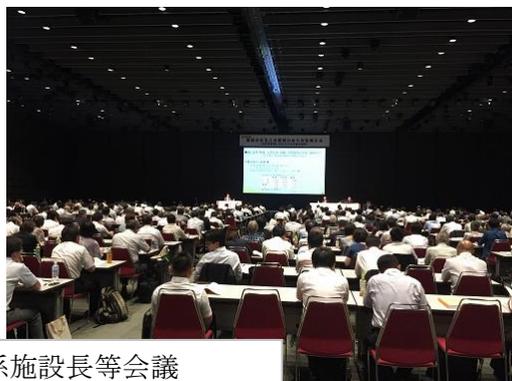
役員研修会の様子



パート向け研修会の様子



視察研修の様子



全国知的障害関係施設長等会議

■利用者現況調べ（平成30年3月31日現在）

① 年齢構成（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	合計人数
男性	1	34	16	8	5	1	0	65
女性	0	17	9	10	1	0	0	37
総数	1	51	25	18	6	1	0	102

平均年齢：男性 32.00歳、女性 31.90歳、全体 31.95歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
男性	16	4	13	19	7	4	2	2.26
女性	6	0	5	10	7	8	1	3.08
総数	22	4	18	29	14	12	3	2.56

■工賃の支払い状況（単位：円）

①工賃支給比率

事業名	資金収入額(円)	工賃総額(円)	支給人数(人)	支払比率
たのしいどう	32,834,032	12,237,900	50人	37.3%
きっちんどう	21,015,925	7,965,200	24人	37.9%
あかるいどう	7,600,412	5,057,500	19人	66.5%
全事業合計	61,450,369	25,260,600	93人	41.1%

②利用者工賃額

事業名	工賃総額(円)	支給人数	平均工賃額	うちB型のべ 工賃支給人数	うちB型事業平均
たのしいどう	12,237,900	50人	21,246	327人	24,007
きっちんどう	7,965,200	24人	28,549	207人	31,290
あかるいどう	5,057,500	19人	23,093	120人	30,550
全事業合計	25,260,600	93人	24,296	654人	28,616

平成 29 年度 たのしいどう 事業報告

1. 29 年度事業の総括

生産活動の面においては、入ってくる受注に対応するだけでなく、顧客を獲得するための営業活動に積極的に取り組みました。パン工房での新規顧客との取引や販売先の開拓等の動きがありました。年末商戦はこれまでになく商品の製造販売が活発な時期を過ごしました。しめ飾りの販売やクリスマスのケーキ等の菓子やドイツパン“シュトーレン”の販売など、受注対応に追われながらも、大きな利益に繋げることが出来ました。企業の工場内で行なうおしぼり検品業務に新たに取り組みはじめた事で、施設外で利用者さんが活躍する機会も増えました。多様な利用者さんのニーズや特性に合った作業種の確保はまだまだこれからも考えていく必要があるものの、杖の組み立て作業や玉ねぎの梱包作業など、作業の難易度も幅広く、多くの利用者さんが役割を担える作業のきっかけ作りにもつながりました。やりがいや楽しみを創出する活動では、利用者さんのダンスチームの活動に取り組み、定期的に汗を流す時間を作れるように仕組み作りを進めました。

2. 実施事業

■ 就労移行支援事業	定員 6 名	現員 5 名
■ 就労継続支援事業 B 型	定員 22 名	現員 30 名
■ 生活介護事業	定員 12 名	現員 15 名
■ 短期入所事業	定員 2 名 / 日	

3. 平成 29 年度の利用状況

■ たのしいどう全体（定員 40 名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	50	100.0 %
開所 日数	24	24	26	25	26	24	25	24	25	23	23	26	295	
延利用 回数	974	987	1,003	1,004	963	987	1,036	970	1,028	932	899	1,030	11,813	

平均実利用数 40.1 名（小数点第 2 位以下切り上げ）

年度内に 2 名の利用者さんが新たに利用開始しました。通所されている方の実人数は定員を超えていますが、お休み等もあり、年間を通して考えると、概ね定員と同じ 40 名が平均の利用数となっています。

■就労移行支援事業（定員6名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	5	7	92.0%
開所日数	24	24	26	25	26	24	25	24	25	23	23	26	295	
延利用回数	145	140	147	143	134	140	144	140	151	134	106	105	1,629	

平均実利用数 5.6名（小数点第2位以下切り上げ）

2月から3月にかけて2名の方がB型事業に契約変更となりました。

■就労継続支援事業B型（定員22名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	28	27	27	27	27	27	27	27	27	27	28	30	30	104.0%
開所日数	24	24	26	25	26	24	25	24	25	23	23	26	295	
延利用回数	559	562	576	573	545	561	593	540	566	525	532	624	6,756	

平均実利用数 22.9名（小数点第2位以下切り上げ）

1月より1名の新規利用者さんが新たに利用開始しました。

■生活介護事業（定員12名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	96.9%
開所日数	24	24	26	25	26	24	25	24	25	23	23	26	295	
延利用回数	270	285	280	288	284	286	299	290	311	273	261	301	3,428	

平均実利用数 11.7名（小数点第2位以下切り上げ）

昨年度から現在までで、利用者数の増減はありませんでした。

■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

今年度は短期入所事業の利用はありませんでした。

4. 取組みの概要

■利用者支援

□企業就労

すでに企業就労されていた方からの希望を受けて、転職の支援を行ないました。これまでに就いた事の無い職種への転換を目指すための様々な情報提供や企業見学、体験等の機会の提供をし、退職から企業への就職支援、企業とのマッチングを図りました。円満な退職でご本人、企業ともに快く次のステップへと進むことができ、新しい職場でも良好な評価を得ることが出来ています。

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

・パンの製造販売

～大口の受注先の取引終了等の売上減になる要素を跳ね返すべく、営業活動に積極的に取り組みました。新規の顧客や販売先を得ることができたほか、製品パッケージの変更などに取り組み、味だけでなく見た目も買いたくなる商品づくりを進めました。

・菓子の製造販売

～全国の事業所様との取引を継続的に進め、クリスマス時期の書き入れ時の受注増を目指しました。繁忙期の製造は非常に忙しくなりましたが、年度内の売上目標を達成することが出来ました。

・利用者昼食、グループホーム夕食の製造委託作業

～引き続き彩りのあるメニュー作りに努め、楽しみのある献立になるように、土曜日の「お楽しみメニュー」を企画しました。内需拡大の取り組みの中で販売開始された「北海道ラーメン」の梱包・発送業務を行ないました。

・紙工芸品と受注作業

～しめ飾り製造に重点を置いた紙工芸品作りでは、過去最高の売上を達成する事が出来ました。受注業務では杖の組み立て業務の作業をはじめとした様々な作業に取り組んでいます。企業の工場内でのおしぼり検品業務を新たに始まり、施設外の作業の機会を得ることが出来ました。

・「そらかぜ食堂」の運営

～これまでの営業で蓄積したデータをもとに、売れ筋の期間商品を残し、新商品の開発、販売も進めました。お客様の声にも耳を傾け、味付けや盛り付けなど、定期的に打ち合わせをしながら飽きさせないお店作りをしています。

□ やりがいや楽しさを創出する活動

- ・ダンス活動の安定的な継続を図るため、日中一時支援の余暇支援メニューにダンス練習を定期的に盛り込むことで、練習時間を確保しました。発表の機会はまだまだ多くありませんが、練習していく課題曲を決めて、練習を積み重ねていくことが利用者さんの趣味活動につながったようです。一部の利用者さんは通所時から作業開始前までの時間を活かして音楽をかけて練習をする姿も見られました。

■ 権利擁護

- ・利用者さんの障がい特性も様々であり、50名の利用者さん同士の間関係など、日々様々な対応が求められる中では、スタッフ朝会、終礼時のケース報告で日々話し合う事を積み重ねました。限られた時間の中で答えが出るものとそうでないものがありますが、支援上の課題を共有することでガス抜きの機会にもなっています。

■ 苦情解決

今年度の苦情・要望受付は6件でした。ご家庭からの連絡事項が現場に十分に周知されていないことから発生したもの、利用者さん間で起こったトラブルへの対応に関わるもの、利用者さんへの支援上の説明に不手際があったことが要因でした。情報の共有の徹底や安心して利用できるための環境作りなど、日頃の自分たちの支援を振り返る上で大変気づかされる部分が多く、今後のより良い支援に繋げていかなければなりません。

■ 災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しました。複数の出入り口があるため、火災の発生場所によって人の動きも異なることから、実際の火災を想定することの難しさと大切さを学ぶ機会となり、活きた訓練となりました。

■ 年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■ 諸会議

- ・事業所会議・・・月1回実施。情報の共有を図るため実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

- ・各担当者会議・・全国の福祉事業所間での活発な販売や購入に向けた内需拡大、そらかぜ食堂の運営、企業就労者支援、利用者昼食提供の質の向上、それぞれの目的に合わせた担当者が出席し、諸会議を月1回実施しています。

■健康管理

健康診断を年1回実施し、疾病の早期発見に努めています。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等については法人の事業報告参照。

■工賃支払い状況

□就労移行支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	7	7	7	7	7	7
総支給額	134,100	132,300	133,800	135,100	133,700	135,000
平均額	19,157	18,900	19,114	19,300	19,100	19,286

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	7	7	7	7	6	5	81
総支給額	136,400	134,300	219,100	128,100	107,300	255,900	1,785,100
平均額	19,486	19,186	31,300	18,300	17,883	51,180	22,038

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	27	27	27	27	27	27
総支給額	543,600	546,500	555,300	560,300	557,000	557,300
平均額	20,133	20,241	20,567	20,752	20,630	20,641

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	27	27	27	26	28	30	327
総支給額	553,100	552,800	818,400	527,400	596,300	1,482,600	7,850,600
平均額	20,485	20,474	30,311	20,285	21,296	49,420	24,007

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	15	15	15	15	15	15
総支給額	186,700	156,000	176,300	184,800	180,800	184,300
平均額	12,447	10,400	11,753	12,320	12,053	12,287

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	15	15	15	15	15	15	180
総支給額	185,500	183,900	350,200	168,500	184,700	460,500	2,602,200
平均額	12,367	12,260	23,347	11,233	12,313	30,700	14,456

□事業所全体の平均工賃額 ¥ 21,246 / 月 (50名)

5. 課題

50名の利用者さんにお支払いする工賃は、毎年少しずつ増額することができていますが、十分とは言えません。生産活動の成果が効率的に利益につながるように、今やっている役務や作っている製品がそれに見合うのかどうかの検証は今後も必要です。また、食品事業を主軸としていることから、関係法令の改正への対応、衛生管理体制の強化など、今後は安心安全な製品作りのための準備は急務です。29年度を振り返り、新年度の取り組みに繋げていきます。また、利用者さんが心身ともに安心して通所が続けられるように、情報の伝達をより円滑にすることを初めとしたスタッフ間の結びつきの強化が必要です。

就労事業の報告

■事業班名：そらかぜ食堂

1. 取組みの概要

空知総合振興局食堂の運営も早いもので3年目を迎えました。昨年度の運営を振り返ってみて、集客増と楽しみのある来店を目指し、新商品のメニューの展開や季節イベントの企画など、お客様を飽きさせない食堂作りと、明るく楽しい職場作りに努めました。



2. 成果

年度目標の年間来客数21,660人、売上げ1040万円を突破する事が出来ました。行政機関の庁舎内という性質上、同じお客様に月に何度もご利用いただく事を念頭に置き、新商品や期間限定商品などの展開を継続することで、職員さんからもイベントメニューを楽しみにしている声があり、手ごたえをつかむことが出来ます。新商品は概ね1か月ほどで需要は落ち込むこともわかり、間を空けず毎月メニューの提案を行なう重要性も知ることが出来ました。

29年度年間ランキング

1位～A定食	(2.6%)
2位～B定食	(2.4%)
3位～カレーライス	(3.7%)
4位～カツカレー	(3.2%)
5位～みそラーメン	(2.1%)
6位～特盛ざるそば	(2.1%)
7位～しょう油ラーメン	(1.9%)
8位～ソースカツ丼	(1.9%)
9位～鍋焼うどん	(1.9%)
10位～かき揚げ丼	(1.5%)

(%はオーダーに占める割合)

3. 課題

職員の方々の福利厚生施設としての使命もあり、提供価格を低めに設定していることで、利益が出にくい運営スタイルであることが課題です。仕入れ等の工夫は今後も必須です。また、早くて、安く、美味しいランチを安定して運営していくためにはまだ人手が不足していますので、利用者さんの作業のスキルアップを目指しています。昼時は大変忙しいお仕事ではありますが、利用者さんとスタッフが力を合わせて頑張っていきたいと思っております。



■事業班名：レインボー&クリアー

1. 取組みの概要

主にクイリング製品製造等に取り組む「レインボー班」と企業からの下請作業に取り組む「クリアー班」の二つに分かれて活動を行ないました。クイリング製品作りでは、主にしめ飾りに的を絞って製作を行ないましたが、年間を通じてお客様からの注文品には対応し、スポーツ大会の賞状やイベントの記念品などを手がけました。

下請作業では、昨年同様に公園管理業務と玉ねぎの発送業務に取り組みました。また、春から冬にかけて、アイスピックステッキ（ピック内蔵型の杖）の組立て作業を初めて請け負いました。また、施設外作業として、企業の工場内でのおしぼり検品作業が新たに始まりました。



2. 成果

クイリング作業で製造したしめ飾りは、これまでよりも広く営業活動を行なったことで、多数のご注文を頂き、売上を上げる事が出来ました。下請作業ではこれまで分解や分別のお仕事に取り組んできましたが、初めて組立製造のお仕事を請け、分解と製造の両方の作業に取り組んだことで、利用者さん個々の持てる力、出来ることの幅が一段と広がりました。施設外でのおしぼり検品作業では、利用者さんも現場の従業員さんに気配りを頂き、作業面での技術指導を頂きながら、順調に継続が来ています。



おしぼり検品作業の様子

3. 課題

納品の期限がある組立製造の作業に取り組んだ時に、期限に間に合わせるために少々無理な工程を組む場合がありました。今後は、様々な企業からのニーズに対応していくためにも、他の事業班と協力体制を組む等の方法で効率的に製造を進めていく必要があると感じています。おしぼり検品作業は、見落としを防ぐための仕組みや環境作りなど、質を高めていくための取り組みが必要となります。



様々な作業に取り組みました。

■ 事業班名 ぱん工房春いろ&HARU カフェ

1. 取組みの概要

売上増に向けて営業活動に取り組み、安定的な受注量を得ることや、日々の販売コースを効率的に販売できることを目指して取り組みました。製品開発においては、ラスク等の製品の包装見直しをし、より購買意欲が高まる様な見栄えとなる様に順次進めました。クリスマス商戦ではシュトーレンを製造し、札幌での催事販売にチャレンジしました。



2. 成果

春いろイチオシの商品である食パンを施設・事業所様の昼食として採用して頂くことが出来たことや、新規の販売先を開拓することが出来たことで、売上高も昨年度を上回る事が出来ました。包装を変えた製品もお客様にご好評を頂き、販売会等の機会でも、売れ残りのリスクが高いパンに依存せずに売上を上げることが出来るようになってきました。クリスマスのシュトーレンの販売では、自信を持って市場の相場に見合った値段をつけ、営業トークでお客様の心をつかまえることや自社製品の良さを発信する大切さを改めて学ぶことが出来ました。



3. 課題

食品表示法その他の関係法令の改正に対応して、法律を正しく理解していくことや間違いのない製品作りが出来ているかどうかを適切にチェックしていく体制作りがとても大切です。原材料の高騰は今後も続いていく事が想定されますので、より付加価値の高い製品の開発は続けていく必要があると考えられます。



■ 事業班名 HARU Berry

1. 取組みの概要

全国各地の事業所様へ向けて主力の冷凍ロールケーキや行事用のケーキ、焼き菓子等の製造販売を継続し、クリスマス等のイベント時期には受注獲得へ向けて営業活動を行ないました。また、受注を待つだけでなく、パンの日々の外販と合わせて焼き菓子の販売を行ない、札幌市の地下歩行空間での販売会や地元での催事に合わせて積極的に出店を行ないました。



クリスマスロールケーキ

2. 成果

イベント時期にちなんだ商品を展開することで、全国の事業所様からも数多くのご注文を頂くことができ、年間の売上目標を達成することができました。販売先に合わせて包装を工夫することで、同じ商品でも季節感を出していくことが出来たかと思えます。



札幌地下歩行空間での販売会

3. 課題

ロールケーキは冷凍食品として広範囲に発送する販売形態がとれるため、メリットは大きい反面、自分たちがすぐに行けない場所まで商品を届けることに対する製品の質と安全が担保できるような管理体制の構築が非常に重要となっています。

菓子類の需要が高まるクリスマスやバレンタイン等の年度の後半の販売計画は一定の成果を得ましたが、年度の前半は収入面で苦労した面があります。年間を通して安定的に販売できる顧客、販売先の開拓が今後も必要です。また、受注獲得へ向けた早目の営業活動をする事や、パン工場の製造設備を活用しやすい作業の流れを作るなど、作業の効率化をすることが今後の課題となります。



■事業班名：さんくっく

1. 取組みの概要

引き続き、法人より委託を受けて利用者さんの昼食製造作業に取り組みました。旬や節句、仲間の事業所の製品を取り入れたメニュー作りや新たに月1回のお楽しみメニューにも挑戦しました。年度末からは北海道ラーメンの梱包・発送作業も始めました。より衛生面に気をつけられるよう、新様式の手洗い・白衣チェック表で衛生管理の徹底を目指しました。



仲間の事業所の製品や、法人で開発した北海道ラーメンをメニューに取り入れました。



2. 成果

お楽しみメニューでの選択メニューの実施や、珍しいメニューに挑戦することが出来、利用者さんの食べる楽しみが増えたのではと感じています。一方で、健康へ配慮が必要な方がいる中で昨年から続けていたヘルシーメニューの実施があまり出来なかったことはありましたが、貧血ぎみの利用者さんが多いとの話を聞き、後半から月1回程度貧血予防メニューを取り入れたり、こんにゃくや野菜を多く取り入れた肉料理で食べやすい健康メニュー作りにも取り組んできました。

3. 課題

通所されている利用者さんの健康のために、日々の献立の栄養価計算での栄養管理、健康状態に応じたアプローチ、医務係や看護師との情報の共有が更に必要と感じています。食品表示が厳しくなっている中で、生鮮食品などを主にスーパーで購入していたところを食品の規格書が整っている業者との取引へと移行していく必要があり、そのための準備を進めているところです。また HACCP 基準に対応出来るよう、環境の整備も必要となつていま

す。



月1回のお楽しみメニューでは、手作り肉まんや春いろのピザ生地を使ったデザートピザなどの選択メニューを実施しました！



■データ（たのしいどう）

- | | | |
|-----------|-----------|---------------|
| 1. 製造販売事業 | 売上 3084万円 | 工賃還元額 1,064万円 |
| 2. 下請加工事業 | 売上 198万円 | 工賃還元額 160万円 |

平成 29 年度 きっちんどう 事業報告

1. 総括

29 年度で開設 6 年を経過し、継続することの大変さをさまざまな面より感じる一年となりました。そんな中でも福祉事業所として、大きな事故・怪我もなく、年度当初のメンバーそろって 1 年間、昨年度同様に利用していただくことができています。

就労事業では、ヤマト福祉財団様より通算二度目の助成金を賜り、より一層、利用者さんの就労事業に力を入れるようにと 200 万円相当の就労機器「スチームコンベクションオープン・食洗器（シンク付き）・冷凍庫」を整備させてもらうことができました。就労事業での成果を求められる昨今の中で、事業所としても利用者さんも大変嬉しく、心強い出来事でした。食品事故もなく、経過は諸々ありましたが、結果、目標であった平均工賃月額 3 万円を超えることができました。

支援面としましては、スタッフの入れ替わりがあり、大変フレッシュな顔ぶれでの支援となりましたが、利用者さんにとっては、若々しさあふれるメンバーとの活動が行えることの方が嬉しい部分も多いようで、行き届かないところもありつつも、毎日、楽しく通っていただける場として提供とすることができたようです。



2. 実施事業

就労継続支援事業 B 型	定員 14 名	現員 18 名
生活介護事業	定員 6 名	現員 6 名



3. 平成 29 年度の利用状況

■きっちんどう全体（定員 20 名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	24	23	23	24	24	23	23	23	24	24	23	24	24	96.4%
開所日数	24	24	26	27	24	25	27	24	26	23	24	27	301	
延利用回数	486	484	494	504	488	479	463	479	509	474	443	503	5,806	

平均実利用数 19.3 名（小数点第 2 位以下切り上げ）

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	17	17	18	18	17	17	17	18	18	17	18	18	100.9%
開所 日数	24	24	26	27	24	25	27	24	26	23	24	27	301	
延利用 回数	357	355	362	375	361	350	329	349	373	349	324	367	4251	

平均利用数 14.2名（少数点第2位以下切り上げ）

生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	86.1%
開所 日数	24	24	26	27	24	25	27	24	26	23	24	27	301	
延利用 回数	129	129	132	129	127	129	134	130	136	125	119	136	1555	

平均利用数 5.2名（少数点第2位以下切り上げ）

28年度と比較し、現員数の変化はありませんでした。前年度比の利用率は、-0.4%。

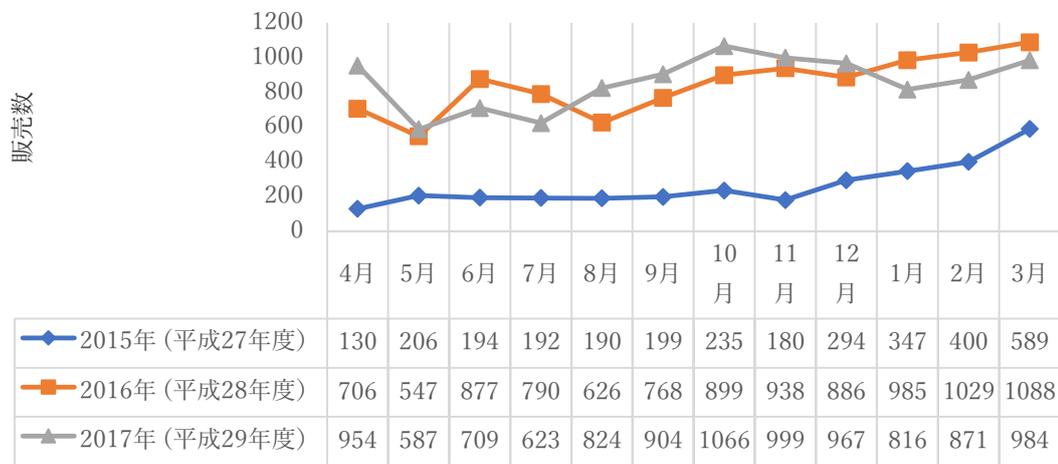
4. 取り組みの概要

平成29年度のきっちんどうは、平成28年度の成果に続き、順調な弁当製造を進めていくことを予想して計画を立てておりました。しかし、29年度は、28年度とは真逆のスタートを切ることとなりました。28年度からご注文を受けていた工期2年でご注文を受けていた大量注文先より4月いっぱいでの他の業者に変更するとの申し出を承りました。理由は、値段の差でした。当事業所では1つ540円で販売している日替わり弁当を一般企業の弁当屋では配達込みでも450円で提供されていました。中身で引けを取るつもりはありませんので、交渉も重ねましたが、企業としては経費節減を考えると避けられない話となり、結果、5月より毎日20～30食の注文数の製造を失いました。年間で金額に換算すると300万円強。その補填をすることが今年度、最大の課題として年度当初より発生しました。

挽回をするために、日替わり弁当のコストを再確認。現在利用しているお客様の状況の再確認。購入する側としての希望する価格設定、仕入れ業者の再検討など、さまざまな視点からお弁当の見直しを行ないました。その上で、8月より1か月以上の先行予約をしていただけるお客様（個人・大口問わず）に「毎日割り」という形で、日替わり弁当（450円）の提供を始めました。

注文がなければ、利用者さんの作業は減り、工賃も下がってしまいます。また注文を取るためならと、全てを安価にしまうと利益を画することができません。この度のこと、大口に頼った販路の確保は、一度つまづく利用者さんに安定した作業と工賃を

日替わり弁当販売数 推移



失うというリスクを肌で痛感しました。

結果、「毎日割り」の企画が功を奏したのか、弁当数は着々と増え、何とか昨年度同様の数まで受注することができるようになりました。厨房でも手を余すことなく、利用者さんの活気ある活動の場となり、利用者さんスタッフと一緒に、お客様に安心安全に食べていただける弁当製造を進めていくベースを作った一年となりました。

■利用者支援

支援の主軸である生産活動事業では、おにぎり・弁当製造を中心に活動を実施しました。29年度は、製造量が増えた弁当製造の工程の中で、利用者さんの作業をどれだけ多く効率的に関わってもらえるように役割分担できるかを個別支援計画との連動を意識して支援を行ないました。昨年度から弁当製造の流れが変わっていると感じている利用者さん一人ひとりが、担う役割の一つひとつを一生懸命果たせるようにと真剣に作業に向かう姿がたくさん見る事ができました。中には、これまで土曜の作業参加を希望しなかった方から土曜の作業にも参加してくれる方も出てきました。

大量製造に合わせて、ヤマト福祉財団様からの助成で設置することができた就労機器（スチームコンベクションオーブン・食洗器・冷凍庫）は、そんな利用者さんの作業



を支えてくれる大きな力となりました。

28年度から開始している高齢者施設様への食事提供も継続して実施。毎月の定例給食会議の他にも毎日の検食簿の回覧を行ない、食事についての忌憚のない意見をリアルタイムで共有し、翌日の食事提供に生かせる仕組みも定着し、利用者さんへの支援にもつなげることができています。食事に合わせた HARU Berry のおやつも大変好評で高齢者施設様から来年度も継続して契約を頂くことができています。さらに、この食事提供のことを耳にくださった近所の高齢者施設様からも 30 年度に新たに契約を依頼されています。

製造した商品の販売強化として、29年度も日本知的障害者福祉協会による第6回全国生産活動・就労支援部会職員研修会（兵庫大会）に参加させていただきました。一つひとつの法人事業所だけでは成し得ない「繋がるチカラ」を発揮し、学ばせてもらうことができました。

今回も北海道販売ブースとして「ラーメン」も出展。北海道から発！生ラーメンの商品化へも力をそそぎ、全国へ商品発信をしてきました。

検 食 簿

施設名：デイサービスセンター 検食者：川上

日付	平成 〇〇 年 / 月 / 〇 日 火曜日		13 時 〇〇 分
主食	ご飯の炊き加減	適量	主食は美味しく感じました。炊き加減は丁度いいです。
	炊き加減	多い	
	お粥の炊き加減	多い	
汁物	味	濃い	
	量	多い	
	温度	適量	
副菜	調理加減	適量	
	炊き加減	多い	
	量	多い	
デザート	少ない	多い	デザートは美味しいです。味は丁度いいです。
	味	濃い	
	温度	適量	
その他	全体的な色	適量	全体的に美味しく感じました。味は丁度いいです。デザートは美味しいです。味は丁度いいです。
	良い	改善必要	
	全体的な盛り	改善必要	
おやつ	良い	改善必要	
	調理加減	適量	
	味	濃い	
所見			



全国各地から参加者・出展者で神戸の地元の方にもたくさん購入していただきました



今年の見本市は神戸で“北海道のチカラ”を大アピールしてまいりました。

■ 権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせも併せて実施。年度途中にも法人内研修や職員会議などでもことあるごとに「権利擁護」について話題にし、様々な視点から権利擁護について取り上げています。従業員の中でも割合を多く締めてきているパート職員にも権利擁護について、周知を進めています。短時間の会議ながらもその分、毎回、パ

ート職員への情報の共有をすすめました。

今年度は「埼玉県送迎車での放置事故」「栃木県暴行事件」「全国のA型事業所による障がい者大量解雇」など、タイムリーなニュースを取り上げながら、虐待防止の観点からも情報提供を行ない、権利擁護・虐待防止の両側面より支援について考えてもらう機会を作っています。

人権侵害ゼロへの誓い

北海道知的障がい福祉協会宣言

北海道の知的障がい者、障害福祉施設・事業所から利用者の人権侵害を防止することを誓います。

私たちは、
知的障がい者の自由と尊厳を守り、
自立した生活を支援するため、
あらゆる努力を惜みず、
知的障がい福祉事業所における
「人権侵害ゼロ」の実現を誓います。

1. 誓いは、日本国憲法第14条（平等権）、「障害者権利条約」「障害者虐待防止法」「北海道障がい者条例」を遵守し、虐待、就業障害等おこしめとする人権侵害行為を決して行わないことを心に誓い、署名を行います。
2. 協会宣言に「人権侵害ゼロへの誓い」の署名を附し、施設・事業所利用者と家族との署名をします。
3. 人権侵害ゼロを実現するため、施設利用と認知と認知に努めることとし、必要に応じて連携を求めます。

平成30年 4月 1日

北海道知的障がい福祉協会宣言

人権侵害ゼロへの誓い

私は誓います。

施設 事業所名

署名者氏名

署名者氏名

横田 雅之

林 美智

鈴木 晴香

廣園 拓

中筋 朋弥

横田 千穂

八巻 桂

小玉 孝氏子

佐藤 晴美

大川 道之

澤田 真紀

まっちんぽう

北海道知的障がい福祉協会 協会の皆様へ

■ 苦情解決

苦情受付については、29年度0件となっています。

利用者さんからの要望については、日頃より苦情窓口の担当者をはじめ、各職員にて対応し、要望の聞き取りや要望への対応を日々行っています。昨年度から継続して要望を受けていた利用者さんには1年間をかけて、事業所の変更を実現しました。

今後も利用者、ご家族、障がいのある方たちの身近にいる方たちから気軽に要望や相談が行なえるように対応していきます。

■ 感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから利用者及び職員の全員が毎月、検便を実施しております。大腸菌 0157、サルモネラ、黄色ブドウ菌については、毎月の検便結果をもって、健康保菌者の把握まで確認することができています。ノロウイルスにおいては、結果論になってしまうことが多いようですので、体調不良者は、厨房に入らない（持ち込まない）を徹底し、利用者さんの体調管理と共に衛生面の確保に配慮しています。29年度も感染症に罹る利用者及び職員はほぼありませんでした。家族内での感染の恐れがある方についてはお休みしていただくなどして、疑わしき状態で館内に入らないことを優先して対応をすすめました。

■ 災害対応・事故対策

非常災害・事故対策では、火災想定避難訓練を年2回実施（8/18、12/1）。利用者・スタッフ一同、改めて火災での災害時の対応方法、避難経路、避難先を確認する内容にて訓練を実施しました。

空知では、大きな災害は起きることがありませんでしたが、年度末には、雪融け水が一気に川に流れ込み水量が増すことがありましたが、地域生



ダミーを使用した避難訓練を今年も実施。

活支援とも連携を取りながら早めの対応を取ることができています。

内需取引を行なっている江差福祉会様や北海道光生会様とも連携し、地域への販売促進と合わせて、災害備蓄食品の確保に努めています。

■年間行事

日時	行事名	会場
4/19	ヤマト福祉財団助成式	きっちんどう
7/31	健康診断	たのしいどう
8/18	避難訓練	きっちんどう
10/13～14	利用者研修旅行	江差町
11/8～10	全国生産活動・就労支援部会職員研修会	兵庫県尼崎市
11/11～12	香川県 社福) ナザレの村視察研修	香川県高松市
11/30	避難訓練	きっちんどう
1/20	LP ガス協会主催 キャラ弁教室	きっちんどう

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・事業所(班)会議・・・月一度の全体会議の他に事業所会議を月1回ペースで実施。
全体会議であがった案件や事業所の議案について検討しました。
- ・個別支援計画策定会議・・・利用者の個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。
利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論し、作成に努めています。
- ・ケース会議・・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。

■健康管理

7/31 全利用者、スタッフに対して健康診断を実施。29年度も任意での取りまとめとなった検診でしたが、ほとんどの利用者が検診を行なわれています。

一般検診の身体測定、視力検査、聴力検査、血液検査、尿検査、胸部X線、心電図、個人からのオプション検査。検査結果により、個人相談及び精密検査を勧めています。

■支援記録

利用者支援記録及び事業所日誌を通して、記録の在り方をスタッフと確認しています。第三者に閲覧していただくことがあっても適正な記録として見て頂ける内容の記載を行なうように伝えています。1日の中で「できたこと」や「良い表情が見られたこと」などに着目し、少しでも利用時間中に利用者さんが楽しんでおられた様子の記録をしています。

くことが大切であることを毎年のことですが、継続指導しつつ、記録を残しています。

■職員研修

行政や各福祉団体からの法の改正における制度の研修、利用者支援・権利擁護における研修、生産活動における研修等で外部研修に 14回延べ19名参加しています。

内部研修も不定期ではありましたが実施。基礎知識を含め、制度、記録方法、個別支援計画作成についてなどの研修を行なっています。

■施設整備状況

消耗器具備品・・・車両リースアップ買取（ノア）

修繕・・・・・・・・正面駐車場路盤回復工事

■工賃支払い状況

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	18	17	17	17	18	17
総支給額	378,100	378,600	373,000	381,400	378,200	377,900
平均額	21,006	22,271	21,941	22,435	21,011	22,229

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	17	17	17	18	17	17	207
総支給額	377,900	378,400	1,214,100	390,400	380,900	1,468,300	6,477,200
平均額	22,229	22,259	71,418	21,689	22,406	86,371	31,290

生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	6	6	6	6	6	6
総支給額	90,500	79,200	90,400	78,300	82,400	89,700
平均額	15,083	13,200	15,067	13,050	13,733	14,950

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	6	6	6	6	6	6	72
総支給額	83,700	81,800	319,200	84,300	86,500	322,000	1,488,000
平均額	13,950	13,633	53,200	14,050	14,417	53,667	20,666

□事業所全体の平均工賃額 ¥28,548- (24名) (対28年度比 -1,017円)

5. 課題

少しずつですが、「きっちんどうへ働きにきている」という自覚を利用者さんから感じられる事業所の雰囲気が出てきたように感じます。そういう意味では、今回のきっちんどうの結果は、働きに来ている方に前年度比で支払った工賃が下がってしまっていることを考えると満足してもらえない結果ではなかったことを反省するべきことだと感じています。

街中での食事処も長く続けられる店は多くありません。これだけ生活の中に浸透してきているコンビニエンスストアでさえ、いつなくなるかわからない時代です。昨年の課題のとおり、これからは常に3万円以上の工賃を支払い続ける事業所として「継続力」が必要であると痛感しております。福祉事業としても就労事業としても、無事故で安心して利用していただけるような事業所であり、町のお店として根付かせて行きたいと感じています。



就労事業の報告

▲事業班名 てのひら

1. 取組みの概要

食品製造班として、おにぎりの製造販売・弁当の製造販売・利用者昼食提供に取り組みました。

おにぎり製造では、冷凍流通保存品として昨年より「肉巻き棒」を新たに商品化したこともあり従来の「肉巻きおにぎり」のシリーズと合わせて、全国の事業所などでイベントや昼食提供に使用していただきました。

兵庫県で行なわれた「第6回全国生産活動・就労支援部会職員研修会」の物産展では、肉巻き棒をイベント用に「肉巻きチーズフォンデュ」にアレンジして430個を販売し、お客様にたくさんPRさせていただきました。

また、季節に合わせて節分やひなまつりなどで恵方巻きやひし形おにぎりの注文販売も行ないました。



「第6回全国生産活動・就労支援部会職員研修会」
での販売の様子



肉巻き棒をアレンジした
「肉巻きチーズフォンデュ」



月形 雪の聖母園のまんまる納豆を使用した
「恵方巻き」



『ひな祭り』のひし形おにぎり

お弁当製造では、今年も全国の障害福祉事業所の商品を加工販売するため、香川県の「さぬきうどん」を仕入れ「うどん弁当」として、奈良県のプライベートブランドで製造したカレーを「世界にひとつだけのカレー弁当」として、いつでも注文を受けて配達できる定番弁当として販売を継続しました。

その他、2年目になりましたが市内の高齢者施設の昼食配達や建設会社や企業、空知管内の学校関係など様々な分野のイベントや会議、研修などの予算に応じたお弁当注文も沢山いただき、お弁当の内容だけではなく見た目から喜んでいただけるようにイベントなどの開催名を入れた帯をつけるなど工夫をしました。また、ヤマト福祉財団様からの助成により厨房内設備も充実し製造力も上がりました。



食洗機での洗浄作業の様子



弁当盛り付けの作業風景

また、24年度から続けさせて頂いているLPガス協会さんより承っている小学生対象のキャラ弁教室は今年度も実施致しました。

今年も食品異物混入事故の多くの事例から、当事業所でも白衣付着の異物取り除きに重点を置き、異物混入対策に取り組みました。

2. 成果

おにぎりの部門では、第6回全国生産活動・就労支援部会職員研修会」でアピールをさせていただいたことを含め、全国の事業所様より「肉巻きおにぎり」各種、「肉巻き棒」、「パリゾット」と冷凍流通保存品として、きっちんどうで製造した商品を購入いただきました。

その中で購入した事業所より、販売時にホットショーケースを使用せず保温を取る方法として炊飯機を利用した販売方法の例や、網で炭焼きをして販売した例などの情報もいただくことができました。器具什器類が充実していなくても十分に販売を行なえることも実証していただき、今後は販売方法も合わせてアピールを行なえます。

きっちんどうでの販売先は、15法人 1団体。約115万円のお買い上げをいただいています。

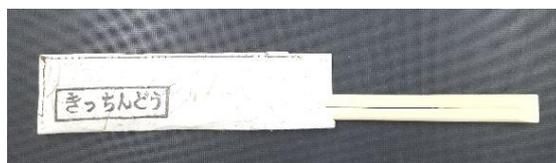
お弁当製造では、近隣の福祉事業所や企業、行政機関などからもご注文頂く事ができました。また、900円以上の高額予算のお弁当については香川県の事業所にて紙漉きの箸袋を製作しており、「きっちんどう」オリジナルのスタンプを作っていただいで活用することで事業所間の繋がりから取り入れることができました。

設備が充実し大量製造が可能になったことで、今までよりも1日の製造数増が見込めることもあり日々の日替わり弁当のコスト見直しや仕入れ業者の選定も行ないました。価格見直し後より、1ヶ月以上毎日継続して配達を希望された方には「毎日割」として日替わり

弁当を540円から450円で提供することが可能になり、建設現場や高齢者宅などに営業を行ないました。その結果、安くて美味しいお弁当を食べられると新規顧客も増え製造数増に繋がりました。



予算900円のお弁当



香川県の事業所で製作した紙漉きの
きっちんどうオリジナル箸袋

また、平成26年以降助成金をいただいてから継続してヤマト運輸様より社内行事のお弁当を年に数回ご注文をいただいております。開所以来初めての大口注文数の370個のお弁当製造を行ない無事に納品することができ今までより多くの食数を製造することが可能になりました。ここではオリジナルの帯に、あかるいどうのアート製作メンバーによるヤマト運輸様のロゴマーク・トラックの挿絵が大変好評だったようです。

今までは100個以上のご注文に利用者も職員も自信を持って取り組めていましたが、今年度からは150個から200個以上の対応にも自信を持って製造ができます。

また、衛生面のリスクでも、食器洗浄機の導入により環境が整ったことでメラミン製食器の洗浄および保管ができるようになっていきます。

お弁当製造では、年間1,404万円の売り上げとなる取り組みとなっています。

その中に、市内の高齢者施設の昼食提供も含まれています。

食べていただく高齢者に合わせて常食やおかゆ食、ワーファリンなどの禁忌食対応や、おかずのきざみ、一口大カットなど必要な食数の把握をし、多くの配慮が必要な作業を行ないました。個別のカードにして盛り付けを行なう事で、利用者さんも職員も確認しやすい状況での取り組みも継続して行ないました。新利用者さんが増える度にカードを作って準備をし、また退所された方がいた際には個別カードの整理と確認も行ない常に最新の情報での共有を高齢者施設側と行ないながら進めることで配膳時にも役立っていると好評いただいております。毎月の行事食や誕生会の特別食の対応にも喜んでいただけていると、たくさん感想もいただいております。

29年度のキャラ弁教室では、ディズニーの人気キャラクター“ツムツム”にチャレンジしました。数年開催させていただいておりますが始めて参加されたお子さまは悪戦苦闘しな



ヤマト運輸様のお弁当
会議名を入れた帯を付けてお届け

がらも楽しんで帰られました。



キャラ弁教室の様子。皆さん、真剣に調理を進めていました。今回はディズニーの“ツムツム”を可愛く作りました。

食品製造における衛生の取り組みでは、“手洗い支援”の完全実施と異物混入対策として、スタッフによる利用者一人一人への白衣のローラー掛けの実施を行ないました。

また出荷する製品の最終確認と食品表示のチェックを必ず利用者さんとスタッフ2人で行ない異物混入や表示ミスのないように確認を行なう仕組みを作りました。食品を販売していく中で、一つひとつの商品に責任があることをスタッフ間、また利用者とも共有し衛生・食品表示への意識を高めています。



手洗いは厨房入室時や工程が変化する度に実施。

3. 課題

生産活動では、受注に丁寧に応えることに心掛けました。高齢者施設の食事提供で学び経験したことで、摂取量やご飯の堅さ、アレルギーや薬による禁忌食の対応など地域で暮らしている高齢者のお弁当配達の要望に応じて届けることもあり今後も引き続き、高齢の方でも安心して食べることができる食事作りにおける情報を勉強する必要があります。また、製造量が増えたこともあり限られた時間内で出荷する事を前提に、コストの見直しを含め今後の仕込み状況なども考慮し手作りで行なう中で残すべき作業と、より効率的に進めていくための仕組み作りが必要であると感じています。皆様からのご要望にお応えするためにも質・量ともに向上していくことが課題です。利用者・職員共に限られた時間での活動ですので、利用者さんへの視覚情報の提示やスケジュールなど今まで以上に整備し利用者さん1人1人の力が最大限に発揮できるように様々な視点から環境を整えて効率アップを行なえる状況が必要です。

4. データ

利用者実人数：24名

生産活動売上：2,101万円

工賃還元額：738万円

▲事業班名 まごころ

1. 取組みの概要

下請加工事業班として、自動販売機の管理や館内の清掃業務委託等を実施しました。昨年より引き続き全国の事業所製品を仕入れ販売を店舗にて行ないました。

また、水産会社より芽ひじきの選別作業を行なうことにも取り組みました。



選別作業を行なっている様子



選別する芽ひじき

2. 成果

今年度より清掃業務委託の売上があり、昨年より売上が高くなっています。自動販売機の商品が入れ替わると一時的に売上が上がりますが、例年に比べると毎月の収入に変動がありました。

3. 課題

全国の内需製品の販売では法人全体として売上が伸びないと収入には結びつかない所があるので、イベントや販売時期も考慮しつつ仕入れる製品の選定も必要となります。

また、芽ひじきの選別作業では進めていく工程での確認不足から思うように収入に結びつくことが難しく、今後は先方と現状の確認を行ないつつ取り組むことが必要です。

4. データ

利用者実人数：24名

下請加工売上：61万円

工賃還元額：57万円

平成 29 年度 あかるいどう 事業報告

1. 29 年度事業の総括

平成 25 年度に開設した、事業所「あかるいどう」も 5 年が経過しました。多様化するニーズの活動拠点とし、取り組みを進めてきたこの 1 年の中でも、様々な活動の挑戦や充実を目指して行なってきました。事業所内における創作活動や惣菜製造作業、清掃業務委託を通じた、日中活動支援を実施しました。また、29 年度からは、企業よりおしぼり検品作業業務を請負、利用者さんの新規の取り組みとして、働く意識の向上や作業技術へと、成長に力を入れた 1 年ともなりました。

制作活動では、開設して 5 年、試行錯誤の繰り返しの中で、沢山の芸術作品が誕生する事が出来ています。絵画レンタルや絵画の受注を通して、他事業所の店舗や館内へと作品を飾って頂く機会も増え、より様々な技法や材料を取り入れた制作へと取り組んでいます。昨年に引き続き、29 年度もアールブリュット主催の展示会に利用者さんの作品が選ばれ、展示されています。利用者さんの描いた絵が、パンフレットやポスターの表紙に選ばれる等、利用者さんの創作意欲へと繋げられる嬉しい機会を頂けた 1 年ともなりました。他にも、沢山の展示会への参加や、東北芸術祭へと作品招待を頂ける機会にも恵まれ、利用者さんの芸術作品をより多くの方達に観て頂けた嬉しき 1 年ともなりました。創作活動の歩みはとてゆっくりではありますが、少しずつ様々なカタチとなり、発信や評価へと結び付ける事が出来た 29 年度となりました。

2. 実施事業

就労継続支援事業	定員 10 名	現員 11 名
生活介護事業	定員 10 名	現員 9 名

3. 平成 29 年度の利用状況

■あかるいどう全体（定員 20 名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	219	74.8 %
開所日数	24	24	26	25	26	24	25	24	25	23	23	26	295	
延利用回数	366	375	374	376	374	363	376	363	378	360	335	375	4,415	

平均実利用数 18.3 名（小数点第 2 位以下切り上げ）

■就労継続支援事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120	88.2 %
開所 日数	24	24	26	25	26	24	25	24	25	23	23	26	295	
延利用 回数	217	216	220	222	223	214	225	214	224	211	195	222	2,603	

平均実利用数 10.0名（小数点第2位以下切り上げ）

■生活介護事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	99	61.4 %
開所 日数	24	24	26	25	26	24	25	24	25	23	23	26	295	
延利用 回数	149	159	154	154	151	149	151	149	154	149	140	153	1,812	

平均実利用数 8.3名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

29年度日中活動の取組みとして、製造販売事業と下請加工事業に分かれ、個々の特性に応じた作業内容と、新たな取組み、挑戦へと支援を行っています。

製造販売事業では、27年度から取組み始めた、そらかぜ食堂へ納品、販売を行う小鉢とハンバーグの惣菜製造を行なっています。お客様のニーズに合わせた新しいメニューを取り入れ、売れ筋の動向と調整しながら製造、納品を日々行なっています。また、利用者さんへ提供する昼食製造、事業所間の昼食や歩～夢の夕食と朝食の惣菜製造も合わせて行なっています。今年度も、昼食献立メニューとして、全国や空知管内の事業所が製造、生産する商品を食材として積極的に取り入れ、内需取引を計画的に進めています。下請加工事業では、市内の高齢者施設における清掃、そらかぜ食堂で働く利用者さんの販売業務委託や、おしぼり検品作業を行なう利用者さんの業務委託等を行なっています。また、28年度から取組み始めた絵画レンタル業務では、今年度も引き続き、そらかぜ食堂やパン工房春いる店舗、きっちんどう店舗の壁に飾る絵を季節や店舗に合わせたコンセプトで制作し、定期的に作品の入れ替えを行なっています。作品を観て頂いたお客様より、作品への好評を頂ける機会も増え、より利用者さんの創作意欲へと繋がっています。

5. 成果

■利用者支援について

□就労継続支援事業

就労継続支援事業では、製造販売事業と下請加工事業の取り組みの中で、個々の成長やニーズに合った作業種の提供、様々な取り組みや新たな挑戦を繰り返し行ない、一人ひとり遣り甲斐をもち、より工賃向上の結果として繋げていけるような支援を行なっています。

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

日中活動の生産活動では、惣菜製造にも利用者さんが少しずつ慣れ、自ら進んで調理工程を担う場面が、より増えてきています。一つずつの完成度も高く、利用者さんの調理工程の成長も、より感じる事が出来ています。少ない人数の中でも、一人ずつが責任をもち、自分達の仕事に自信をもって取り組んでいる様子が、伺えるようになっていきます。作る事の楽しみや達成感を大切に、「食」について、今後も興味を高めていけるような支援を実施していきたいと考えています。

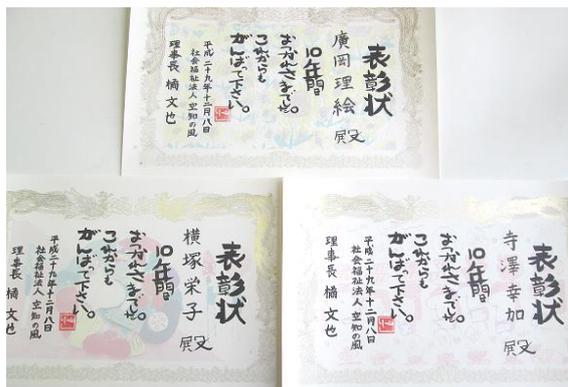
創作活動では、年々利用者さん一人ひとりの感性や技術が高まり、素晴らしい作品が増えてきています。展示への参加を積み重ねていく中で、より利用者さんの芸術作品を観て頂き、個性や感性に気付く、発見して頂けるよう取り組みを進めてきています。また、一人ひとりが、好んだ創作内容や得意とする技法を選択することで、個々が持った才能が作品となり、沢山の評価や遣り甲斐に繋がる活動へと活かされてきています。



利用者さんの絵と字を取り入れた、オリジナル賞状



展示会に向けて制作したオリジナル作品



■権利擁護について

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行われている「権利侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施。年度途中にも法人内研修にて再度、取り上げ読み合わせを行い、法人独自の危機管理アンケートを実施し、自己点検をスタッフ個々で行っています。また、自己覚知について研修し、利用者支援において事前に対応をチームで決める等、ケース対応について検討しております。

■苦情解決委員会

苦情受付については、今年度相談3件、苦情件数は0件となっています。利用者さんから、日々生活している中で感じる疑問や悩み等の相談を受け付け、一人ひとり面談を行ないながら、随時対応を行なっています。

■感染症対策

感染症対策として、年に一度の健康診断実施やインフルエンザ予防接種の奨励。感染症については、月一度の検便も大きな役割を果たしています。

今年度、感染症に罹った利用者、スタッフは0名で終えることができています。

■災害対応・事故

非常災害・事故対策では、8/18、12/1 に火災想定による避難訓練を実施しています。利用者さん・スタッフ一同、改めて火災、地震、土砂、雪害等の災害時の対応方法、避難経路、避難方法、避難先の内容確認と周知となる良い機会となりました。



事故防止においては、交通事故や支援中の事故ばかりでなく、個人情報取り扱いについて指導及び教育を行なっています。

■年間行事

日時	行事名	会場
4/1～	市民健康ひろば 作品展示	健康ひろば 1階
6/17～6/18	常正寺 120周年式典 作品販売	栗山常勝寺
7/6～7/9	東北障がい者芸術祭 作品展示	仙台 メディアテーク
8/10～8/22	北海道巡回展(帯広) 作品展示	帯広 市民ギャラリー
9/9～9/10	北海道アールブリュットフォーラムin岩見沢 作品展示	まなみーる 1階
9/13～9/19	障がい者週間アート展「ハート&アート 2017」 作品展示	健康ひろば 1階 空知信用金庫 1階
10/1	健康まつり 作品展示・販売	岩見沢 赤レンガ
10/26～10/28	みんなあーと展示部門 入選作品 作品展示	札幌 かでる 2・7
12/5～12/6	北海道社会就労センター販売会「ふくしの市」 作品販売	札幌 地下歩行空間

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・事業班会議・・・・月一度の全体会議の他に事業所会議を月1回ペースで実施。全体会議であがった案件や事業所の議案について検討しました。
- ・個別支援計画策定会議・・・・利用者さんの個別支援計画作成時にケースごとに実施。
個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・・・日々の利用者さんの支援について検討を行ない、支援を実施しています。

■健康管理

7/31 全利用者さん、スタッフに対して健康診断を実施。

身体測定、血液検査、胸部x線、心電図、個人からのオプション検査。検査結果により、個人相談及び精密検査を勧めています。

月1回、利用者さんの体重測定を実施しています。医務日誌や連絡帳を通して、季節に応じた体調管理や体調変化など、親御さんと連絡を取り合っています。

■支援記録

事業所日誌や日々の支援記録を通して、記録の在り方や適正な記載の方法などを伝えていきます。1日の作業の内容や出来事だけではなく、どのような工程が出来るようになったか、どんなことへ興味を持って取り組んでいるかなども記載するよう指導しています。出来ない行動ばかりに注目するのではなく、色々な視点を変えながら支援し、記録へと繋げていけるよう指導しています。

■職員研修

行政や各福祉団体からの法の改正における制度の研修、利用者支援・権利擁護における研修、生産活動における研修等の外部研修に15回延べ4名参加しています。内部研修も不定期ではありましたが、実施しています。職員研修では、権利擁護や人権侵害について、食品製造に関わる食品表示の基礎知識等について、研修を行なっています。



9月に開催された、「北海道アールブリュットフォーラム・ハート&アート」の作品展示様子



6月と12月にアート作品販売を行なった、「常正寺120周年式典」と「ふくしの市」の様子

■施設整備

- ・屋根・外壁修繕～材料仕入れを行い、スタッフの手で実施。
- ・アトリエ玄関郵便ポスト整備～材料仕入れを行い、スタッフの手で実施。
- ・利用者作業場、アトリエ配置換えと整備～材料仕入れを行い、スタッフの手で実施。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	10	10	10	10	10	10
総支給額	273,600	254,100	278,300	273,500	269,400	277,400
平均額	27,360	25,410	27,830	27,350	26,940	27,740

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	10	10	10	10	10	10	120
総支給額	270,600	264,600	424,700	248,700	266,000	565,100	3,666,000
平均額	27,060	26,460	42,470	24,870	26,600	56,510	30,550

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	9	9	9	8	8	8
総支給額	104,600	91,100	104,300	92,600	85,400	97,000
平均額	11,622	10,122	11,589	11,575	10,675	12,125

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	8	8	8	8	8	8	99
総支給額	90,300	94,400	215,600	84,400	95,600	236,200	1,391,500
平均額	11,288	11,800	26,950	10,550	11,950	29,525	14,056

□事業所全体の平均工賃 ¥ 23,094— (19名)

6. 課題

生産活動では、工賃向上に向けた取り組みとして、惣菜製造を27年度から取り組み始め、2年経過しています。そらかぜ食堂へ納品する惣菜の他にも、各事業所の昼食や歩〜夢の夕食と朝食の惣菜、ハンバーグの納品も合わせて行なっていますが、飽きがこないような惣菜内容の入れ替え、メニューの種類増加へと、なかなか製造が追い付いていなかったのが、現状となっています。ニーズに合わせた内容と調理法を考え、価格に見合った材料の選定や仕入れにも、課題が残ったように感じています。製造に迫られる事で、異物混入や器具の点検等、食品衛生管理が疎かにならないよう、安全性に留意した環境を整え、利用者さんと調理の楽しみを感じながら、製造へと繋げていけるよう、今後も取り組みを進めていけたらと考えています。

日中活動として、創作を進める上で、1点の作品を完成まで創り上げる時間や、制作完成に至るまでの難しさを日々痛感しています。展示会への作品制作と、絵画レンタルの定期的な入れ替え作品制作へと、両立した制作が難しく、常に期間に追われている状態が多かったと感じています。展示会による、利用者さんの芸術作品の啓発や、活動への成果報告へと繋げることは、年々増えてきたように感じています。しかし、販売に向けた、アート製品の商品化や営業等を進める事は、今年度は行なう事が出来ず、課題が多く残ったと感じています。展示会を通して、作品の魅力を伝え、活動内容を外部へ啓発する活動や周知へと、今後は取り組んでいけたらと考えています。

就労事業報告

■事業班名 にこにこ・さんさん

1. 取組みの概要

日中の創作活動では、利用者さんの作品を館内のアトリエや食堂、様々な展示会への出展に向けた作品作りを通じた、アート活動へと歩みを進め、日々取り組んでいます。展示会に向けた制作では、油絵や立体作品等、様々な技法を取り入れ、個人作品から共同制作など、1点ずつ心を込めて皆で作りに上げています。また、利用者さんのアートをグッズとして製品にし、札幌の地下歩行で販売した「ふくしの市」や、岩見沢イオンで行なわれた「合同即売会」でも、販売する事が出来ています。また、昨年引き続き、仲間の事業所から絵画の受注を頂く事が出来、製作、納品を行なっています。年末では、利用者さんの絵画をデザインとして取り入れた、2018年オリジナルカレンダーを制作、販売も行なっています。法人の年賀状にも、利用者さんのアート作品や干支の戌の絵を掲載し、更に多くの方々へ、個々の芸術作品を観て頂く機会が増えた1年となりました。

アート作品



新冠の仲間の事業所へ納品した作品

きっちんどう店舗へレンタルした作品



あかるいどうの利用者さん全員の絵や作品を取り入れた、オリジナルカレンダー

食品製造班にここでは、利用者さんの昼食製造と昨年に引き続き、空知振興局 5 階にあるそらかぜ食堂へ納品する、小鉢やハンバーグの製造を行なっています。そらかぜ食堂スタッフと連携し、改良を重ねながら、美味しい惣菜の提供を目指し、日々取り組みを行なっています。

下請加工事業班さんさんでは、館内清掃と特別養護老人ホームこぶしの清掃委託、アートグッズの販売、そらかぜ食堂の販売業務委託、絵画レンタル等、1年間取り組んでいます。また、新規の作業として、クリーンアクトのおしぼり検品作業を業務委託として、29年度より取り組み始めています。

清掃委託では、アトリエや作業場、トイレの清掃、施設周りのごみ拾い等、少しでも綺麗に、過ごしやすい環境作りを目指し、取り組んでいます。こぶし清掃では、清掃メンバー1人ずつの頑張りが、年々評価にも繋がり、更新や器具の購入へと進める事が出来、利用者さんの意欲にもなっています。自分の役割りや、チームとしての協力、助け合いが責任感を更に高め、日々作業の達成感となっています。

そらかぜ食堂の販売業務委託では、あかるいどころから3名の利用者さんが、販売と製造、接客へと携わっています。接客、製造を積み重ね、日々沢山経験していく中で、作業の意欲向上や自信、造り甲斐も出来、1人ずつの表情にも変化が感じられる様になっています。

新規で取り組み始めた、クリーンアクトのおしぼり検品作業では、ローラーで流れてくるおしぼりに汚れや異物が入っていないかを、1つずつ確認をする流れ作業を行なっています。流れ作業の為、とても集中力の要する体力業務ですが、見落としがないかを確認しながら、日々の検品目標数に達成出来る様、懸命に業務へと取り組んでいます。

昼食・惣菜製造



月1回提供をしている、「お楽しみメニュー」



事業所内の昼食・惣菜製造の様子

下請委託事業



共同で取り組んでいる創作作業の様子



老人福祉施設内の清掃風景

館内の清掃風景



クリーンアクトのおしぼり検品作業の様子



そらかぜ食堂で働いている利用者さんの様子

2. 成果

活動（製造、創作活動、清掃）を通じて、就労や芸術作品への創作意識、活動への参加意欲が、自身の居場所や生き甲斐をより高め、社会的ルールと、取り組む姿勢を身に付ける機会となっています。また、開設よりアトリエギャラリーを1階で行なってきましたが、利用者さんの障がいの状態や変化に対応する為、考慮した作業場兼アトリエとして、新たな作業場作りを29年度進めています。

創作活動では、7月に行なわれた第3回東北障がい者芸術公募展や、9月に岩見沢健康ひろばで行なわれた「ハート&アート展」、10月に札幌のかでる2.7で行なわれた「みんなあーと2017」へと作品を出展する事が出来ています。また、9月に岩見沢市のまなみーるで開催されたアールブリュットフォーラムでは、2年連続で、1名の利用者さんの作品が展示され、高い評価を頂いています。作品が選ばれた事は、本人さんの自信と達成感へと繋がり、作品作りへと活かされています。昨年同様、他事業所からアート作品の購入依頼を受け、飾って頂く場所の大きさと環境に合わせた絵を製作し、11月に納品を行なう事も出来ています。

今年度も作成した、オリジナルカレンダーは、親御さんやスタッフ、また各事業所の店舗販売等で注文を頂き、製造を行なう事が出来ています。

アトリエテーマ：取り組み展示



作品名：クリスマス



作品名：動物大行進

展示テーマ：ハート&アート



作品名：ふなっしーロボ



作品名：ダークホール

展示テーマ：アールブリュット



利用者さんの作品が、ポスターやチラシの表紙に選ばれています。

3. 課題

利用者さんの特性に応じた作業内容、ニーズに対応した個々の環境整備や治具の整備が、今後も更に増やしていく必要があると感じています。今年度は、絵画レンタル委託、販売、注文による製作や製造が多々ありました。来年度も、アート制作した作品を製品として製造、継続して販売、レンタルへと進めていける様取り組み、より利用者さんのもつアートの魅力を広げられる様、啓発活動へと繋げて行きたいと思えます。また、工賃向上に向けた作業の確保と改善へと取り組み、1人ひとりの利用者さんの生活が豊かになる様、支援を目指していかれたらと感じています。

4. データ

下請加工事業（業務委託）

利用者実人数：9名

生産活動売上：2,463,400円

工賃還元額：2,400,500円

製造販売事業・下請加工事業（にこにこ・さんさん）

利用者実人数：11名

生産活動売上：5,137,020円

工賃還元額：2,657,000円

平成 29 年度 歩~夢 事業報告

1. 29 年度事業の総括

平成 29 年度の運営については、29 年度の開設の新規ホーム開設に向けて、消防法、建築基準法等の各種法令基準を満たすように準備を進めることができました。

今年度、高等養護学校の宿泊体験の希望は、例年と比べあまり多くはありませんでしたが、企業就労されている方や日中事業を利用されている方が、将来のことを考え宿泊体験事業を活用されていました。

また、行政機関や相談事業所からも緊急的な受け入れ要請も含めて宿泊体験の利用希望が多く、支援体制上の理由によりすべてのニーズにお応えすることは難しかったのですが、状況を確認しながら対応のできる範囲で受け入れを行なっています。

利用状況については、新規利用者の方が 1 名で退所された方はいませんでした。

支援の面では、誕生日の方の外出の他に、個々の希望を聞き取り、できる限り希望に応えられるよう外出や外食等を企画しました。長期の休みについては、旅行などのイベントを企画し、にぎやかに行ないました。新しい取り組みとしては、前年度、悪天候で達成できなかった登山に再挑戦し山頂まで登りきることができました。また、歯科医院に協力を頂き、歯科衛生に力を入れてみました。

今年度も余暇活動の充実と、一人一人個別の暮らしの質の向上に努め、人権擁護や虐待防止に一層取り組み、日中活動との連携を重視して事業を行ないたいと思います。

2. 実施事業

共同生活介護一体型事業所（合計定員 40 名）※宿泊体験 5 名含む

春が来た荘	定員 5 名	現員 4 名	(宿泊体験 1 名)
夏色荘	定員 5 名	現員 5 名	(宿泊体験 1 名)
秋いろいろ荘	定員 5 名	現員 3 名	(宿泊体験 1 名)
冬暖か荘	定員 5 名	現員 3 名	
いなほが実り荘	定員 5 名	現員 4 名	
ハラダハイツ	定員 2 名	現員 2 名	
コーポハラダ	定員 2 名	現員 2 名	
桜なごみ荘	定員 4 名	現員 4 名	(宿泊体験 1 名)
もみじ色づき荘	定員 5 名	現員 4 名	(宿泊体験 1 名)
ふきのとう	定員 3 名	現員 3 名	

春が来た荘



夏色荘



秋いろいろ荘



冬暖荘



ハラダハイツ



コーポハラダ



いなほが実り荘



桜なごみ荘



もみじ色づき荘



ふきのとう



3. 平成 29 年度の利用状況

※定員 40 名（宿泊体験 5 名：4 月～3 月）※年間 365 日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	40	45	42	42	40	41	42	40	38	40	39	38	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	1,020	996	1,031	1,047	1,022	1,033	1,033	1,013	1,021	986	950	1,068	12,220

※平均実利用者数 33.5 名（小数点第 2 位以下切り上げ）

※平成 29 年 4 月から 3 月までに男性 1 名入居

平成 29 年 4 月から 3 月まで退所された方は居ませんでした。

企業就労されている方も含め、長期の帰省をされる方が少なくなって来ています。ご家庭との連携を念頭において、今後も一層余暇時間の充実など生活支援の重要性が増してくるものと思われれます。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	10	7	7	5	6	7	5	3	5	3	3	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	18	23	20	15	18	38	21	24	7	31	28	16	259

昨年度に比べ、宿泊体験の利用は減少しています。理由として高等養護学校の体験実習の受け入れが少なかった事、宿泊体験を経て正式な入居に切り替わった方もいた為と考えています。

宿泊体験お相談ケースとして、ご家族や学校がご本人の将来を考えた相談や、行政機関からの緊急一時保護ケースの相談があり対応をさせて頂いたケースもありました。ご家族の高齢化に伴い宿泊体験の希望も増えていくのではないかと考えていますが、平成 30 年度は、男性の空部屋の確保が難しく女性の受け入れしかできない状況です。

今後、少しでも、皆さんの希望に答えられるよう居室の確保については検討していきたいと思えます。

4. 取組みの概要

■利用者支援

昨年度に続き、南町のエリアと市内中心部を拠点とした支援を行なっています。職員の動きも互いに連絡を取り調整を行う事で効率よく支援ができるように工夫をし、少しずつ生活環境を整えることができました。まだまだ、地域の中で生活をしていく不安はありますが、日々の挨拶や町内会の清掃活動を行なっている中で、皆さんから少しずつ気にかけて頂くことも増えてきたように思います。今後も継続して地域社会の一員として役割を行えるように取り組みます。

■権利擁護

前年に引き続き、世話人を含むすべての歩～夢スタッフを対象に、権利擁護や虐待防止についての内部研修を春・秋の2回実施しました。今年度、外部研への参加が少なく報告する機会がありませんでしたが、常に専門家としての知識や意識の向上に努めています。

定例の会議内で、ニュースなどで報じられた虐待の事例、福祉制度の情報などを施設長より話され、パートの世話人に至るまで一定の学習の機会を持たせています。

■苦情解決委員会

今年度の苦情件数は1件、要望が0件となっています。苦情については、利用者さんから職員の言葉遣いに関する内容について上りましたので、現場長の方より対象職員に利用者さんとの距離感や言葉の使い方について指導を行っています。

又、自分から訴え得られない方については、日々の会話から内容をくみ取り、必要に応じて時間を取り対応を行なうようにしています。

■感染症対策

感染症対策としては、今年度もインフルエンザの予防接種を行なっています。家族の方がインフルエンザにかかり、帰省が中止になる方もいましたが、その後発症された方もいませんでした。

他の感染症につきましても、毎日うがい、手洗いの声掛けや予防接種、加湿・換気などの対策のおかげか、グループホーム内で大きく流行することはありませんでした。今後も継続して行ない、食中毒やその他の衛生面についても対策を講じていきたいと思っています。

■災害対応・事故対応

今年度は、南町のGH付近の川の水かさが増して緊急的に避難を行わなければならない状況には、なりませんでした。一時的な豪雨でGHの一か所が雨漏りで、天井・床の一部・火災設備等の修繕が必要となりました。





春の避難訓練では、消防署立ち合いのもとで、消火器訓練と、通報訓練を行ないました。秋は地震災害を想定し、映像をパソコンに取り入れ、映像を見ながら、隠れるタイミングや、逃げるタイミングなどの練習を行ないました。

今年、初めて映像を取り入れた避難訓練を実施しましたが、言葉で伝えていくよりも地震の予測音が流れてからなので、利用者さんとしては、行動の起こしやすい内容となっていたのではないかと感じました。



事故対応については、グループホーム内で、利用者さんが、自室にて大きな声を出したため、見に行くと、立ち上がろうとした際に足をひったとの事、足を確認するとかなり腫れていたため、通院しねん挫との事で処置していただきました。振興局には事故報告を上げさせて頂きました。

■年間行事

平成 29 年度	内 容
4 月 1 日	ふきのとう開所
4 月 1 6 日	誕生会（各月行っている）
4 月 3 0 日	札幌外出（デパート巡り）
5 月 2 日	春の消防査察
5 月 3 日	グリーンランド
5 月 4 日	GW バーベキュー
5 月 2 0 日	クリーングリーン作戦 2017
6 月 1 3 日	歯科講習会

6月10日	コンサート
6月25日	避難訓練
7月6日	ジャズフェスティバル
7月17日	新日本プロレス観戦外出
8月14日	三笠イオン外出
8月19日	野球大会観戦（恵庭）
8月10～11日	お盆キャンプ
8月12～13日	西町町内会子供盆踊り
8月18日	百餅祭り
8月24日	防犯教室
9月9日	樽前山 登山・温泉
9月24日	あかとき学園祭
10月8日	札幌三角山 登山・丸山動物園
10月9日・15日	赤い羽根共同募金（イオン岩見沢）
10月29日	バスケットボール練習試合
11月23日	ティーボール大会練習試合
	災害想定避難訓練
12月15日	歩～夢 忘年会
12月17日	ティーボール大会
12月31日	外食（年越し）
1月2日	初詣外出
1月28日	厄払い
1月20日	モーターショー
2月7日	温泉外出

29年度の余暇活動としては、12月17日に「ティーボール北の甲子園」が札幌ドームにて開催され、今年度は、メンバーも増え、大会ユニホームをそろえ大会に



出場しました。1年間の練習の成果を十分に発揮し、多くの方の応援をいただき、一勝をすることはできました。30年度も、大きな目標を持ち現在も練習に励んでいます。



ふきのとうで記念撮影



樽前山 登山【男性】



防犯教室



三角山 登山【女性】



パーベキュー



グリーンランド

今年度は、利用者さんの希望中心にした外出計画が多く感じました。特に札幌の外出については、ディズニーショップなどに行ったり、コンサートに行きたいと夜間の外出を組むこともありました。新の企画としては、歯科衛生士さんによる「歯磨き講習」・警察署の協力により「防犯教室」を取り入れてみました。

また、昨年のリベンジで樽前山にも挑戦し見事山頂にたどりつきました。女性の方にも声をかけたところ、興味を示した為、三角山に挑戦し見事最後まで登りきることができ、本人さん達もとても楽しそうでした。

全員の希望を叶えることは難しいですが、数名ずつでも、本人さんたちの希望に添える活動が出来たらと考えています。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・事業所会議・・・全体会議のほかに月1回実施。主に常勤の生活支援員を中心に、各利用者さんの支援上の課題や、設備、運営の仕方などの協議を行ないました。
- ・世話人会議・・・月1回実施。世話人を中心に、法人全体会議や事業所会議での決定事項の周知や、個別に抱える課題の共有、宿泊体験や特に注意が必要なケースについての話し合いを行ない、支援がブラインドにならないように努めました。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・企業就労担当会議・・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有し、支援の方向性について話し合いを行なっています。
- ・給食会議・・・各事業所担当で翌月の献立について調整をしています。献立ソフトの導入を現在検討しています。
- ・権利擁護担当者会議・・・各事業所の苦情解決受け付け担当者と月1回苦情内容や権利擁護についての打ち合わせや確認事項を話し合っています。

■健康管理

定例の健康診断を実施しています。再検査が必要な方などのデータを嘱託医に診て頂き、相談をさせていただきました。昨年度に続き、体重増加や血圧が高めで再検査を行なった方が多く、毎日血圧を測り日々の状態を確認し対応をしています。年々ゲーム機や携帯の使用ニーズが増えてきたことなどから、視力が低下していく方が多くなってきています。

眼科受診を行なった結果メガネの利用者も増えてきました。また、徐々に高齢期に向かわれている方も多くなってきたため、目の病気にも気を配り適切な対応を行なっていく必要があると思いました。

■支援記録

今年度は、健康診断などの結果から健康面に関する記載が増えたことや、全体日誌の記録や引継ぎが一層重要な支援情報であることを再確認しました。記載内容をエリアごとに分けたことで、確実に記録が残せ、情報共有がより確実になるように作成を行ないました。

また、昨年度に引き続き、日中活動との連携の為、連絡帳を用いて生活の様子や体調の変化などについて記載を行なっています。

家庭と調整については、数名の利用者さんに対し連絡帳を使用してお家庭とのやり取り

を行い、日々の体調の変化などについてお伝えをしています。

また、歩～夢担当者携帯や夜勤携帯の番号の周知をお伝えすることで、家族の方からの連絡も多くなり以前に比べても連絡のやり取りが多くなったように思います。

■職員研修

内部研修については、定例の世話人会議の中で、主に権利擁護や障がいについての、研修を行ないました。

その他は法人の研修計画に基づき研修参加を進めています。

参加した主な外部研修	内容
西原先生を囲む学習会	
道福協全道施設長セミナー	
全国知的障害関係施設長等会議	
北歩～塾	
権利擁護セミナー	行動障害の理解と予防
全国グループホーム研修会	
北海道サービス管責任者研修	地域生活分野
社会福祉法人実務実践セミナー	
災害対策研修会	地震発生時の行動
苦情解決システム研修会	
障がい者福祉に関する意見を聞く会	岩見沢市の福祉政策についてと 当事者のこえを聞く
北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修会	
空知管内知的障害関係施設学校行政機関連絡協議会	発達障がいの理解と支援 * 特性理解と支援の組み立て
加齢化支援研修	知的障がい者の高齢期支援に求められる人間学「嚙下障害のメカニズムと対応」
地域支援部会会議	
北歩～塾	
社会福祉法人実務者決算・財務分析講座	
全道施設長研修会	

■施設整備状況

防犯対策については、各グループホームに、カメラ付きインターホンを設置し不審者の確認ができるようにしています。

1. 29 年度事業の総括

岩見沢市より指定を受けて実施している日中一時支援事業「楽しく」は、三笠市、栗山町と委託契約をし、様々な余暇活動を実施しました。



市内イベントでのダンス発表

2. 実施事業

□日中一時支援事業 定員 15 名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 平成 29 年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	26	26	29	26	27	29	28	22	28	23	30	26	
延利用回数	82	89	111	100	106	136	209	66	74	82	86	111	1,252

土曜午後の時間を活用した余暇支援を年間 51 回実施しました。

4. 取組みの概要

植物を瓶に飾る「ハーバリウム」等の流行を取り入れたメニューも新たに実施しました。利用者さんの趣味活動としてのダンス活動も定期的にメニューに取り入れることで、楽しく踊りの技術を高めていく取り組みも行なっています。外部講師を招いてのメイク教室は毎年好評を頂いており、女性の利用者さんを対象に今年度も実施しました。

5. 成果

障がい者芸術祭「みんなあ〜と」が近づくと、ダンスの練習意欲も非常に高まり、利用数が飛躍的に伸びました。また、メイク教室で毎年ご協力いただいている平田先生にも舞台メイクのご指導を頂くなど、楽しくでのご縁が利用者さんの活動の進展に結びついていった一年でした。



メイク教室の様子。楽しそうに参加されていました。

6. 課題

メイク教室やダンス活動の支援も含めて、継続して行なうことで積み上げていけるメニューは利用者さんにとっても有意義であると思われ、単発で終わるものばかりではなく、こうした継続性のある取り組みの創出があればより利用は伸びていくと思われれます。

平成 29 年度 地域生活支援事業 そらなび 事業報告

1. 29 年度事業の総括

空知の風その他、他法人を利用されている方の計画相談も行ないました。福祉サービスの支給決定を受けるために必要なサービス等利用計画の作成を担当しています。

2. 実施事業

指定特定相談事業

3. 平成 29 年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	3	2	0	3	2	17	0	2	0	4	15	48

4. 取組みの概要

法人内外問わず、事業所を利用される方から定期的に聞き取りを行ない、サービス利用に関して通所先等と円滑な関係を維持できる様に、必要に応じて橋渡しの役割を担いました。利用者さんのニーズに合った福祉サービスに結びつくように提案を行ないました。

5. 成果

47名の利用者さんの福祉サービスの更新や新規利用を無事に行なうことが出来ました。

6. 課題

より迅速に、期間的にゆとりを持って相談支援が行なえる様にスケジュール調整が必要です。また、第三者による中立な相談支援を確保するために、法人内の利用者さんに関しては、少しずつ空知の風以外の相談員さんとの出会いをサポートしていく事も継続課題です。岩見沢市に複数ある同じ相談支援事業所と連携し、ご本人が日頃の思いを話しやすいような相談支援を考えていきます。